

a 学校教育目標	自ら伸びる とともに伸びる	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 知・徳・体の基礎・基本が身に付き、地域に愛着と誇りをもった児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 保幼・小・中の連携を進め、小1プロブレムや中1ギャップのない、子どもが通いたい学校、保護者が通わせたい学校づくり
----------	---------------	----------------------	--

評価計画				自己評価					改善策		学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善策	評価			コメント
					達成値	達成値					イ	ロ	ハ	
信頼される学校	○通ってよかった、通わせてよかった、助めてよかった学校にする。 【肯定的評価98%】—【肯定的評価95%】	確かな学力・豊かな心・健やかな体の重点目標を達成するために学級経営目標や各個人の自己申告書の目標とのリンクを図る。	児童・保護者・教職員のアンケート	95%	99%	104%	A	保護者、子ども、教職員ともに学校に対して好印象で、本校教育活動について満足していることが伺われる。重点目標を掲げて成果を出し、その取組と結果を共有しながら、分かりやすく保護者にも伝えていく結果であると考え。	○			保護者からの信頼は本当に厚く、安心して通わせることができる学校です。又、学校の行事に参加するのが楽しいという保護者の声をよく聞きます。		
	○問題行動に迅速に対応する。 【肯定的評価98%】—【肯定的評価95%】	欠席児童や問題行動はその日の内に連絡する。		95%	98%	103%	A	小規模校のよさが生かされている結果である。職員間で情報共有し、少ない人員ではあるが複数で対応しながら、きめ細かい指導が行われている。	○					
	○保幼・小・中の連携を深める。 【肯定的評価95%】—【肯定的評価90%】	大和町内で組織した知・徳・体の3部会の重点目標の達成に向け、年間計画に沿って取組を推進する。		90%	100%	123%	A	3部会においては、本校の実践をもとにして提案を行ったり、部会での取組を本校の実践にフィードバックしたりしながら、大和町内の連携がより深められるよう、積極的な取組を各自が進めている結果である。	○					
確かな学力	基礎基本定着状況調査・標準学力調査の得点(全学年平均を10ポイント超える)	低中学生:宿題をやりきらせる。 高学年 : 自学の習慣を身につける。	基礎基本定着状況調査と標準学力調査の得点	平均値8ポイント上回る 県平均78.5 第77.8	国語84.4 算数86.9 9ポイント上回る	112%	A	○基礎基本定着状況調査は県平均を8ポイント以上上回ることができた。このことから、概ね基礎学力は定着していると言える。 ○検定テストに向け、自分にあった自学計画を立てさせ、目標通りに学習が進められているかを振り返らせることで、計画的に学習できる児童が増えた。 ○国・算・社・理のフォロープリントを作成し、かきみねタイムを使って全学年で取り組んだことで、集中して検定テスト勉強をする児童が増えた。児童の学習定着度をつかみ、補充をする上でも有効であった。 ●宿題や自学を計画的に進めることができず、寝る時刻が遅くなった。質を高めることができなかったりする児童が数名いる。	○			「言葉の力を身につける」については、達成度85%ですが、新しい方法を取り入れてアップを図っているのでよいと思います。		
	○言葉の力を身に付けさせる。	各学年で読書の目標(時間、冊数等)を決めて取り組む。	児童・教職員のアンケート	90%	77%	85%	B	○学習中の発表やノートやワークシートの書き方等から、表現力が付いてきている。 ○読書に関しては、朝読書、読みかせ、家読、図書委員会の表彰により、児童の意欲は高まった。 ●好きな本や好きな分野の本をくり返し読む子が多く、読書の幅を広げている。 ○朗読集(No.1～No.5)を作成したことで、一層意欲が高まり、自主的に取り組む児童が増えた。 ●意欲的に取り組むことができる児童とできていない児童の差が広がった。	○					
	○言葉の力を身に付けさせる。	各学年でことばの目標(美しい日本語の朗読等)を決め、指導方法を工夫する。	児童・教職員のアンケート	90%	77%	85%	B	○学習中の発表やノートやワークシートの書き方等から、表現力が付いてきている。 ○読書に関しては、朝読書、読みかせ、家読、図書委員会の表彰により、児童の意欲は高まった。 ●好きな本や好きな分野の本をくり返し読む子が多く、読書の幅を広げている。 ○朗読集(No.1～No.5)を作成したことで、一層意欲が高まり、自主的に取り組む児童が増えた。 ●意欲的に取り組むことができる児童とできていない児童の差が広がった。	○					
豊かな心	○誰にでも進んで元気な挨拶ができる。	クラスの係りや委員会・児童会活動等で目標を決めて取り組み、認める場をもつ。	児童・保護者・教職員のアンケート	95%	93%	97%	B	○立ち止まって相手を見ながらの挨拶が校内では定着している。 ●家庭では自ら進んで挨拶ができていない。	○			挨拶は皆とても大きな声でよく出ています。相手(他人)を思いやる気持ちを大切にすることのできる人間に成長してほしいと思います。		
	○一日一つは他の人に喜んでもらえることができる。	「ありがとう」の木等、取り組みの評価を工夫する。		90%	85%	94%	B	○児童間でのありがとうの木への取組は順調定着できる。 ●家庭における一日一語の行動ができていない児童が多い。	○					
	○相手を尊重した適切な言葉づかいができる。	クラスの係りや委員会活動等で目標を決めて取り組み、認める場をもつ。		95%	83%	97%	B	○校内においては児童は適切な言葉づかいを意識しながら活動している。 ●家庭での言葉づかいは乱暴な言葉になる児童も見られる。	○					
健やかな体	全科目で県平均を超える。	○8科目中6科目で県平均を超える。	体力テストの結果	6科目で平均クリア	5科目クリア	83%	B	○8科目中5科目が県平均を超えた。今後も体力向上の取組を継続する必要がある。	○			児童が成長すればするほど、体力が必要です。今まで通り、体力が付く教育をしてください。		
	基本的生活習慣に関わる他の目標(テレビ等)も肯定的評価90%以上にする。	早寝(低:9時、中:9時30分、高:10時)をめざし、懇談やたよりで意識付けしたり、重点週間(学期に一度)を設定したりして取り組む。 赤・黄・緑の栄養バランスのよい朝ごはんを食べることができるように、懇談やたよりで意識付けしたり、重点週間(学期に一度)を設定したりして取り組む。	保護者・児童のアンケート	90%	78%	86%	B	○早寝が定着した児童が増加した。 ●休日前後の遅寝が生活リズムの定着の障害となっている児童がみられる。	○					
			保護者・児童のアンケート	80%	88%	110%	A	○ほとんどの児童や保護者が「3色が揃った朝食」を意識できている。 ●朝食でも野菜不足があり、排便習慣が定着しない児童が多い。	○					

【】:自己評価 評価
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成) < 100
C: 60≦(もう少し) < 80 D: (できていない) < 60

【】:学校関係者評価 評価
イ:自己評価は適正である。 ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。

【j:自己評価 評価】

A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】

イ:自己評価は適正である。 ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。